

【夏休み企画レポート特集】

第 3 回 MELON 環境市民講座

夏休み自然体験 伊豆沼で遊ぼう

伊豆沼での自然体験が 8 月 10 日（金）、子どもを含め参加者 22 人で伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター野鳥館からスタートです。この日は朝から気温がどんどんあがり真夏日、始めに試薬を使い簡易の水質調査をしました。気温 32℃、水温も 31℃。はじめての方は水質の値の悪さに見た目との違いを感じた様子でした。

いよいよ、はす舟乗船です。いつもより盛りりの期間が 7 月の低温で繰り下がり、華やいだ花園に遭遇できました。子ども達の声が「オニヤンマ!」「シオカラトンボ!」と…! 水辺の生き物のお出迎えです。はすの花園を船は四方へと縫って走行、水草のアサザは黄色い花をたたえ、ヒシはかわいい白い花をほころばせ、はすのピンクの花は満面の微笑みで、そして水面の涼しさが自然へいざなってくれました。日常の時を忘れた、別世界への数十分の船旅でした。



沼に入ったの水生生物観察



「この魚はなんていうの？」
大きな魚を捕まえて、子ども達は大はしゃぎでした。



はじめてさわる COD パックテストに興味津々



目の前で咲き誇るはすの花に歓声がもれました

淡水魚館では、伊豆沼・内沼環境保全財団研究員の進東健太郎さんに伊豆沼のお話を聞きました。面積 387 ha（東京ドーム約 36 個分）海拔 6 m の流れがゆるやかな沼で、マガンの増加、オオクチバスの侵入と従来タナゴ、モツボなどの減少で沼環境の今後が危惧されていること。浅低化の防止や生態系維持と、課題は散在している様子です。

今回の子ども達のメインイベントは水中生物とのふれあいです。子ども達が泥んこに足をとられながらも水深を浅くした沼に入り、魚やザリガニの棲家にお邪魔しました。ザリガニ、貝、フナ、コイを網で捕まえたり、抱きかかえたり、泥だらけになり奮闘していました。まさに自然と一体になった体験です。それを見ている大人たちも童心が呼び起こされ、みんなで楽しいひとときを過ごしました。

Report 太田美智子（水部会）